授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2628 号

Current Situation and Problems in Diagnosis of Early Chronic Pancreatitis

早期慢性膵炎診断の現状と問題点

伊藤 光一（いとう こういち）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
早期慢性膵炎（early chronic pancreatitis; ECP)は、その概念が提唱されてから 10 年以上が経過した現在でも病態が明らかとなっていない。ECP の画像診断には超音波内視鏡検査（endoscopic ultrasonography; EUS)が重視されている。本論文は、患者背景と EUS の所見に注目して ECP の診断の現状と問題点について検討している。2019 年 4 月から 2021 年 11 月に当院で EUS を受けた 2502 例に対して、その背景別に有症状群 54 例、膵酵素異常群 61 例、その他の ECP が疑われる群 145 例、ECP 以外の目的で EUS を実施した群 2242 例に分類し、ECP に特徴的な画像所見を有する 150 例を対象とした。ECP の確診と判定された症例は 150 例中 14 例　9%でありその内訳はアルコール性で 40 例中 9 例　22.5%、非アルコール性で 110 例中 5 例　4.5%であった。背景別に確診と判定された割合は有症状群で 15%、膵酵素異常群で 0%、その他の ECP が疑われる群で 2.1%、ECP 以外の理由で EUS を実施した群で 0.13%であった。膵由来の症状を有する症例の中では 48%が確診と判定された。 EUS で画像所見を有していても ECP の確診と判定される割合は 9%と低く、特に非アルコール性では 4.5%と少数であった。しかし、有症状群では他の群と比較して診断率が高く、症状の詳細について着目することで ECP と診断される可能性の高い集団を抽出できる可能性が示唆された。この点は現行の診断基準において改善を要する点と言える。 本論文は ECP の診断について EUS 全例に対して検討することで、今後の適切な診断基準作成に有用と考えられる患者背景を初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。